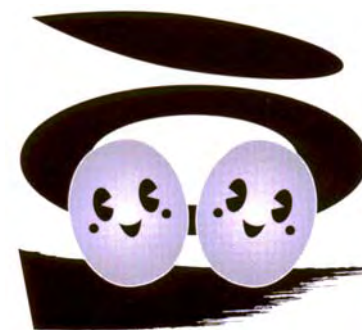


## 大豆の需給・価格の動向等



平成21年9月7日  
大豆の需給・価格情報に関する委員会  
(全中・全農・全集連主催)

1. 20年産大豆の集荷状況

(1) 20年産大豆の集荷数量

20年産の集荷数量は、20万5,015トン(前年対比118%)となった。

○20年産大豆の集荷数量

(単位：トン)

	19年産	20年産	前年対比
全農計	168,895	198,520	118%
札幌	41,612	41,610	100%
東京	57,573	73,790	128%
大阪	31,908	37,320	117%
福岡	37,802	45,800	121%
全集連	4,934	6,495	132%
合計	173,829	205,015	118%

※ 合計はラウンドのため一致しない場合がある。

(2) 20年産大豆の検査実績

20年産大豆の検査実績(3月末現在)は、21万6,860トン(前年対比118%)となった。

1、2等比率は58%で、前年(55%)を上回っている。

○20年産大豆の検査状況(3月末現在、種子用を除く)

(単位：トン、%)

	合計	普通大豆			特定加工用大豆	規格外
		1等	2等	3等		
検査数量	216,860	60,456	64,513	62,224	27,558	2,109
(割合)	100.0%	27.9%	29.7%	28.7%	12.7%	1.0%
前年同月比	118.4%	141.2%	110.9%	125.2%	89.6%	120.7%
前年同月検査数量	183,169	42,809	58,165	49,687	30,760	1,748
(割合)	100.0%	23.4%	31.8%	27.1%	16.8%	1.0%

## 2. 20年産大豆の販売状況

### (1) 月別販売状況

20年産の販売数量は、8月末現在の速報値で、前年対比77%の13万3,456トンとなっている。  
集荷数量(20万5,015トン)に対する販売進度は65%となっている。

#### ○20年産大豆月別販売状況(8月末現在速報値)

(単位：トン)

		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降
19年産	月別数量(t)	796	4,966	12,572	16,446	28,963	15,160	18,031	15,952	27,628	32,555	550	211
	累計数量(t)	796	5,762	18,334	34,780	63,743	78,903	96,934	112,886	140,514	173,069	173,619	173,829
20年産	月別数量(t)	343	2,670	5,035	11,921	7,842	13,773	21,474	9,686	14,328	46,384	0	0
	累計数量(t)	343	3,013	8,048	19,969	27,811	41,584	63,058	72,744	87,072	133,456	133,456	133,456

### (2) 販売方法別販売状況

販売方法別では、8月末速報値で入札による販売が17%、  
相対による販売が19%、契約栽培が63%となっている。

#### ○20年産大豆の販売方法別販売状況(8月末現在速報値)

(単位：トン)

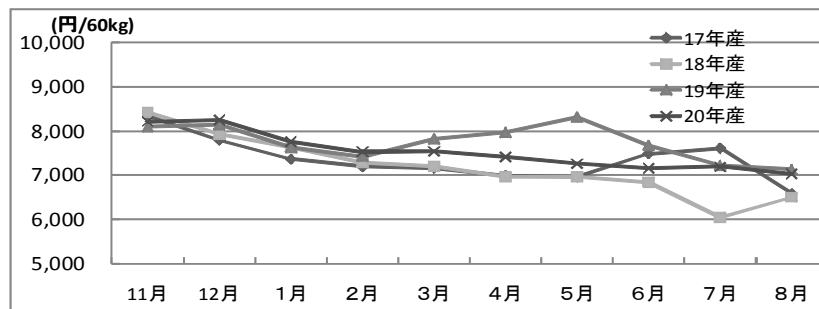
	販売数量	割合
入札販売	23,022	17%
相対販売	25,771	19%
契約栽培	84,664	63%
合計	133,456	100%

(3) 入札販売状況

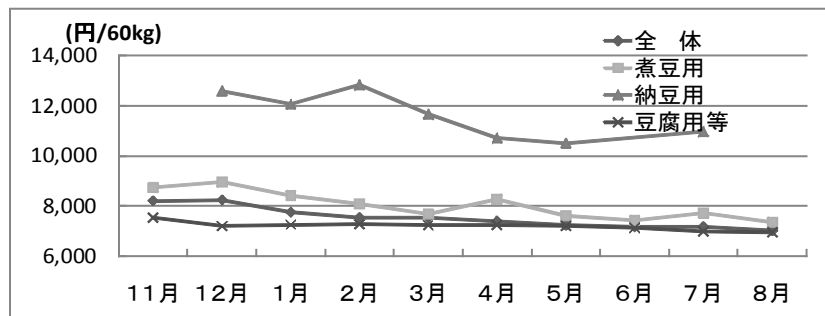
20年産大豆の入札は、8月までに計18回行われ、23,022トンが落札された。

落札価格は、緩やかな低下傾向で推移し、8月の落札平均価格は、7,035円/60kg(消費税込み)となった。また、落札率が例年に比べ非常に低く、11～4月は20～30%、4月以降は20%を下回り、8月末現在の累計も21%と低迷している。

○月別販売価格の推移(17～20年産)



○20年産大豆用途別販売価格の推移



○20年産大豆入札販売結果(主要銘柄)

(単位:円/60kg)

産地	品種銘柄	落札平均価格										
		H20 11月	H20 12月	H21 1月	H21 2月	H21 3月	H21 4月	H21 5月	H21 6月	H21 7月	H21 8月	
北海道	大粒ツルムス		7,991	8,642								
	大粒音更大袖振					8,400		7,862	7,661	7,210		
	大粒とよまさり	8,731	8,757	8,502	8,245	8,001	7,478	7,145	7,392	7,453	7,336	
	小粒スマル		12,974	12,492	12,462	12,180	10,167	10,110		11,000		
	中粒秋田		7,581			7,875	7,425			6,607		
青森	大粒おおすず		7,304	7,259	7,250	7,032	6,714	6,903	6,803	6,638	6,683	
岩手	中粒ナブシロメ		7,466	7,612	7,580	7,495	7,063	6,900	6,870	6,020		
宮城	大粒ミヤギシロメ				7,694	7,607	6,913	6,958	6,873	7,231	6,764	
	大粒タシナガ						6,850	6,700		6,750	6,590	
	大粒タチナガ		7,361	7,256	7,325	7,171	6,850	6,793	6,710		6,530	
秋田	大粒リュウホウ		7,361	6,699	7,225	7,119	6,704	6,769	6,723	6,420	6,510	
山形	大粒リュウホウ		6,988		7,035	6,930	6,603			6,480		
	大粒エンレイ		7,350		6,988	7,011	6,670	6,672		6,585		
福島	大粒タチナガ							6,700	6,720			
茨城	大粒タチナガ				7,361	7,245	6,650	6,710		6,635		
栃木	大粒タチナガ				7,224	7,177	7,201	7,145	6,780	6,681	6,503	6,490
新潟	大粒エンレイ	7,319	7,211	7,177	7,088	7,059	6,637	6,736	6,637	6,457	6,321	
富山	大粒オオツル		7,056	6,983	7,196					6,557		
	大粒エンレイ	7,576	7,175	7,229	7,168	7,195	6,797	6,743	6,716	6,593	6,753	
石川	大粒エンレイ		7,056	7,035	7,035	7,035	6,610	6,563		6,300		
福井	大粒エンレイ		7,161	7,350	7,035	7,040	6,540	6,670	6,505	6,556	6,455	
長野	中粒ナカセンナリ				8,430	8,507	7,667	7,540	7,610	7,510		
岐阜	大粒フクユタカ		7,508	7,397	7,314	7,270	7,034	7,004	6,877	7,080		
愛知	大粒フクユタカ		7,508	7,376	7,344	7,287	7,142	7,094	6,997	7,160		
三重	大粒フクユタカ			7,399	7,259	7,245	6,916	6,834	6,893	6,967		
滋賀	大粒オオツル		7,550	7,707	7,765	7,550	7,138	6,922		6,802	6,720	
福岡	大粒フクユタカ			7,544	7,474	7,487	7,044	6,957	6,886	6,903	6,897	
佐賀	大粒フクユタカ			7,466	7,406	7,457	7,075	7,016	6,940	6,940		
熊本	大粒フクユタカ		7,613		7,413	7,476	6,953	7,015	6,810	6,840		

注:価格は、普通大豆の落札平均価格で消費税を含む。

### 3. 需要・消費動向

21年1月～6月の豆腐の消費状況については、購入数量が対前年比0.2%減に対し、支出金額は同1.2%減と、購入数量の減少以上に支出金額が減少している。

納豆は、支出金額が対前年比7.7%減と、大幅に落ち込んでいる。  
21年に入ってから消費支出全体の減少が大きくなっている。

○一世帯当たりの支出金額の推移(全世帯)

	豆 腐		油揚げ・がんもどき		納 豆		み そ		しょうゆ		食 料		消費支出			
	金額(円)	数量(丁)	金額(円)		金額(円)		金額(円)		金額(円)		金額(円)		金額(円)			
	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)			
平成12年度	7,391	76.27	3,716		3,719		3,196		2,608		967,782		3,814,833			
平成13年度	7,011	▲ 5.1	75.54	▲ 1.0	3,574	▲ 3.8	4,051	8.9	3,042	▲ 4.8	2,539	▲ 2.6	941,972	▲ 2.7	3,675,216	▲ 3.7
平成14年度	6,953	▲ 0.8	75.38	▲ 0.2	3,523	▲ 1.4	4,117	1.6	2,902	▲ 4.6	2,581	1.7	936,454	▲ 0.6	3,653,551	▲ 0.6
平成15年度	6,822	▲ 1.9	74.85	▲ 0.7	3,428	▲ 2.7	4,092	▲ 0.6	2,955	1.8	2,398	▲ 7.1	920,590	▲ 1.7	3,639,176	▲ 0.4
平成16年度	6,679	▲ 2.1	74.74	▲ 0.1	3,360	▲ 2.0	4,093	0.0	2,756	▲ 6.7	2,351	▲ 2.0	909,544	▲ 1.2	3,621,306	▲ 0.5
平成17年度	6,439	▲ 3.6	73.02	▲ 2.3	3,280	▲ 2.4	3,914	▲ 4.4	2,695	▲ 2.2	2,263	▲ 3.7	902,003	▲ 0.8	3,606,377	▲ 0.4
平成18年度	6,493	0.8	73.31	0.4	3,233	▲ 1.4	3,891	▲ 0.6	2,694	▲ 0.0	2,233	▲ 1.3	891,439	▲ 1.2	3,539,316	▲ 1.9
平成19年度	6,492	▲ 0.0	75.06	2.4	3,289	1.7	3,867	▲ 0.6	2,631	▲ 2.3	2,220	▲ 0.6	901,601	1.1	3,573,382	1.0
平成20年度	6,343	▲ 2.3	74.16	▲ 1.2	3,430	4.3	3,744	▲ 3.2	2,720	3.4	2,236	0.7	905,557	0.4	3,563,187	▲ 0.3
平成21年 1月	505	2.2	5.94	2.8	298	2.8	287	▲ 1.7	192	▲ 5.4	146	▲ 1.4	69,569	0.8	291,440	▲ 5.9
平成21年 2月	456	▲ 6.6	5.26	▲ 6.4	297	▲ 5.4	285	▲ 9.5	223	1.4	162	2.5	65,494	▲ 3.6	266,044	▲ 3.5
平成21年 3月	479	▲ 1.0	5.57	▲ 5.3	311	2.6	314	▲ 5.4	232	4.5	179	▲ 4.8	73,488	▲ 1.9	310,680	▲ 0.6
平成21年 4月	480	▲ 0.8	5.63	▲ 4.3	289	▲ 4.9	297	▲ 8.9	215	▲ 11.2	179	▲ 3.2	70,586	▲ 0.5	306,340	▲ 1.4
平成21年 5月	524	▲ 2.4	6.49	6.2	282	▲ 0.4	300	▲ 9.6	243	0.0	187	7.5	76,948	2.0	285,530	▲ 0.9
平成21年 6月	549	1.3	6.62	4.7	262	1.9	288	▲ 10.3	205	▲ 6.4	193	14.9	71,913	▲ 0.5	277,237	▲ 1.7
H21 1～6月	2,993	▲ 1.2	35.51	▲ 0.2	1,739	▲ 0.7	1,771	▲ 7.7	1,310	▲ 2.9	1,046	2.4	427,998	▲ 0.6	1,737,271	▲ 2.3

資料：総務省統計局「家計調査／家計収支編」（2人以上世帯（農林漁家世帯含む））

#### 4. 21年産大豆の作柄動向

##### (1) 21年産大豆生産計画

7月2日に開催された「国産大豆協議会」において、作柄を平年並みとおき、右表のとおり報告した。

##### ○21年産大豆の集荷見込数量

(単位：トン)

	作付面積(ha)			集荷見込(トン)		
	20年産	21年産	前年対比	20年産	21年産	前年対比
全農計	116,145	116,285	100%	198,520	189,120	95%
札幌	19,191	20,650	108%	41,610	41,770	100%
東京	50,080	48,861	98%	73,790	70,670	96%
大阪	25,215	25,437	101%	37,320	35,560	95%
福岡	21,659	21,337	99%	45,800	41,120	90%
全集連	2,884	2,439	85%	6,495	6,225	96%
合計	119,029	118,724	100%	205,015	195,345	95%

※ 21年産の集荷見込数量は、作付計画面積に平均単収を乗じた数値である。

※ 面積は集荷団体の見込みであり、全作付面積ではない。

##### (2) 21年産大豆の生育状況について

7月は北海道では、長雨、日照不足により生育の遅れがみられた。九州地方北部等では、大雨によって冠水したほ場のうち特に被害の大きなほ場において、再播種を実施した。

北海道では8月以降天候が回復したことから、生育の遅れを徐々に取り戻しつつあるが、着莢数が少なく、減収のおそれがある。8月16日以降も曇天・低温と好天が短期間で繰り返しており、生育の回復傾向が鈍化している。

九州地方北部、中国四国地方、東海地方等では、長雨や豪雨により播種作業が遅れていたほ場の収量低下が懸念される。